Management Club Report

May.2015/Vol.149

Monthly Opinion ≪生かしのサイクル≫

歯科医院における上質な歯科医療の提供は、院長一人のハイレベルな技術や、すぐれた人格、リーダーシップによってのみもたらされるものではありません。すぐれた歯科医師である院長を生かすことのできる歯科医療スタッフの技術、動き、考え、思い、品性、そしてそのようなスタッフを生かすことのできる仲間のスタッフの存在があり、さらにはそのようなスタッフ全員を生かそうとする院長がいて初めて実現するものです。院内に相互に生かし合う『生かしのサイクル』が無くてはならないのです。

「スタッフさんの働きがあっての当院です」と語る院長は大勢いますが、心底そう思っている院長はどれくらいいるでしょうか。思うことは思っていても、相応に報いることを怠っている院長が多いように思えるのです。「スタッフを大切にすることが良質経営の要諦である」との近年の“定説”に便乗した宣伝文句として語っているだけの院長をよく見かけます。そもそも「スタッフさん」という表現に軽さと、裏返しの尊大さを感じます。

真剣にスタッフの能力を生かそうと考え、その人の人生を輝かせようとの思いを抱き、ワークライフバランスを理想的な形に持って行き、待遇面での満足度を高めてあげる。それが医院の活性化に繋がり、経済的発展を遂げる一つの大きな要因となるのです。「自分を生かすようにスタッフが動いてくれる」ことだけを期待している院長の歯科医院では、真の活性化は難しいでしょう。今月はこのような観点での『生かしのサイクル』について考えます。

1 野球に見るチームプレーヤーとしての責任

組織内での“自分の仕事”に対する責任とは

チームプレーとは何か？という問い掛けにはどのように答えれば良いでしょうか。例えば、スポーツで考えた場合、そもそも団体スポーツの場合は、ルールで決められた人数が同じフィールド内で連携し合いながらポジションごとに課せられたプレーを中心に動きますので、その動き自体がチームプレーと言えます。

しかし、そのポジションに付帯する専門プレーを忠実にこなすだけでは十分なチームプレーを果しているとは言えないでしょう。むしろそれはチーム内における個人的領域に限定された個人プレーとして捉えられるものです。